

# 令和3年度 さいたま市立与野東中学校 学校関係者評価書

さいたま市立与野東中学校  
学校関係者評価委員長 内田 誠之郎

## 1 学校関係者評価の実施体制

### (1) 構成人数

近隣小学校長、民生・児童委員経験者、青少年健全育成会会長（兼後援会会長）、元校長、教育行政、前PTA副会長、現PTA会長の計10名

### (2) 実施回数

3回

## 2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- ・登校時、はっきりと聞こえる声で挨拶をしてくれる生徒が増えている。服装や髪型もしっかりしている様子が見られる。小学校としても、あいさつ等の指導を徹底していきたい。
- ・学校評価の挨拶の項目では、教職員と生徒の肯定的な意見の差があった。教職員と生徒の差を埋めるためにも、指導と評価を徹底していけるとよい。
- ・不登校は、大きな問題である。与野東中学校も不登校の生徒がいるため、教職員がよく関わっていくとともに、地域も関わっていく必要があると感じる。
- ・交通量が多いので、交通安全指導については、小・中さらに連携し、指導を強化できるとよい。
- ・コロナ禍の中、いろいろ工夫されて教育活動が行われている。
- ・全体的に生徒には、たくましさを育成してほしい。今の中学生は、諦めることが早いと耳にする。目標をもって最後まで諦めない生徒を育成することを期待している。
- ・地域との交流について、小学生は積極的に参加をする様子が見られるが、中学生になると部活や塾などで参加する生徒が少ない。地域も、中学生が参加できるような工夫が必要である。
- ・地域柄、保護者の理想が高い。生徒は一生懸命に活動しているため、保護者にはたくさん称賛することが必要である。
- ・特に、2、3年生は学力面や生活面が向上している。高学歴の保護者が多いため、生徒の自己肯定感が低い、生徒を「認める」ようにしていきたい。また、与野東中学校の高校受験の結果を公表してほしい。
- ・宇宙に関する講演会や、向日葵の丘プロジェクトの取組は、継続して行ってもらいたい。また今年度は、キャリア教育の一環として、PTA会長の講演会を計画してほしい。
- ・子供達が部活動や行事が制限される中、ストレス発散がなかなかできないのではないかと心配したが、学年通信等で先生方が最善を尽くし、可能な限り外での活動機会をたくさん作っていると分かり安心した。
- ・生徒や保護者のアンケートで、「授業理解」の項目について、高い水準を維持している。キャリア教育の取組を通して、教職員全員の研究授業など、指導力の向上への努力により授業の質が高められてきたと考える。
- ・「いじめに係る状況報告」で昨年度よりも人数が減っていて、日々の先生達の努力を感じた。先生方のいじめ防止の取組等で、大人の目に見えない部分が、子供達へのアンケートなどで把握できている結果だと思う。

## 学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・本校では、今年度、コロナ禍の影響で様々な教育活動が制限される中、生徒や保護者の思いをくみ取り、行事など可能な限り工夫を凝らして実施することができた。
- ・「進路指導・キャリア教育」の研究発表会の開催があり、教育委員会の指導を受けながら教員一人ひとりの授業力向上を図り、質の高い授業の実践を心がけ、発表することができた。研究の成果を生かし、生徒一人ひとりの夢が実現できる進路指導や学力の向上に取り組んでいきたい。
- ・今年度、コミュニティスクール運営協議会の準備委員会を立ち上げ、地域の方々へ丁寧に説明をしてきた。令和4年度から実施校としてスムーズに組織が運営されていくようにしたい。

さいたま市立与野東中学校長 金子 要一